

なかしべつ
協働の景観まちづくり
ミーティング (TPC)



第3回

平成29年9月1日(金)

19:00~

中標津町

19:00 1. 開会・あいさつ

19:05 2. 情報提供

- ・今までの中標津町における景観まちづくり
- ・中標津型景観整備機構(仮称)について
- ・今までの計根別地区における景観まちづくり

19:20 3. 意見交換の進め方

19:25 4. 意見交換

計根別地区の将来像と“協働”を実現するための取組を検討します。

20:15 5. まとめ・振り返り

20:30 閉会



「中標津町景観計画」はじまりの1年です！
中標津町の景観まちづくりを推進する
まちづくり団体を組織します！

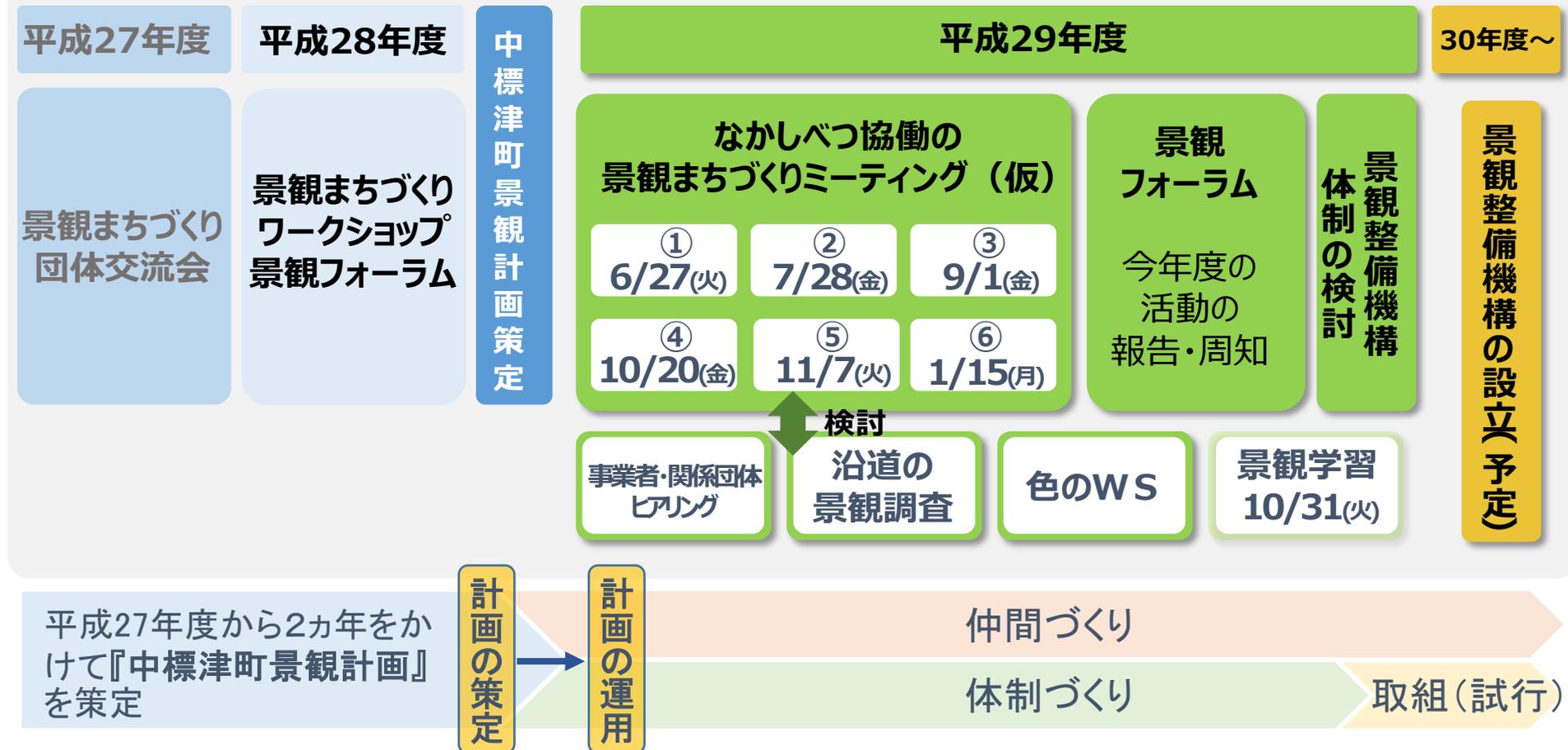
平成29年4月1日中標津町が景観行政団体に移行し、平成29年5月1日「歴史、文化、産業との融和、自然との共生による景観まちづくり～中標津町の風土に調和した良好な景観を守り、つくり、育てる～」を基本理念とした「中標津町景観計画」が施行されました。

景観まちづくりの検討内容や試行した活動の情報発信、またさらなる担い手の発掘(仲間づくり)や町全体の景観まちづくりに対する意識の醸成を図る必要性が共有されました。

本ミーティングは今後の中標津町の景観まちづくりを牽引する母体組織となることを想定して活動していきます。

- 『なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング』は現時点で全6回の開催を予定しています。
- その他「事業者・関係団体ヒアリング」や「沿道の景観調査」などを本ミーティングで検討し実施していくことも考えられます。

中標津における「景観まちづくり」を育てていくプロセス



仲間づくり・体制づくり
来年度に向けて

第1回なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング

①協働の景観まちづくりの目的の共有（6/27）
今年度の取組の目的やスケジュールを共有します。

第2回なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング

②中標津型景観整備機構（仮称）の事業メニューの検討（7/28）
先行事例などを参考に中標津に求められる景観整備機構の事業について検討します。

第3回なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング

③計根別の将来像の検討@計根別（9/1）
10年後の計根別の将来像を検討します。

第4回なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング

④中標津型景観整備機構（仮称）の体制の検討（10/6）
機構内の組織体制の検討及び、関連する他団体との連携の体制を検討します。

第5回なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング

⑤中標津型景観整備機構（仮称）との連携@計根別（11/7）
中標津型景観整備機構が設立された際にどのような連携が考えられるか検討します。

第6回なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング

⑥H29の振り返りと来年度の取組の検討（日時未定）
今年度の取組を振り返り、次年度に求められる取組や事業を検討します。

協働の景観まちづくりを進める うえでの検討事項

<中標津型景観整備機構（仮称） の組織について>

- ・中標津型景観整備機構（仮称）が担うべき役割
- ・将来の目指す姿
- ・体制
- ・事業メニュー（調査・景観学習・情報発信：フォーラム、SNS等）
- ・他団体との連携
- ・仲間づくり など

※中標津型景観整備機構（仮称）としての試行も想定

<中標津町の景観形成・ 推進方策について>

- 【市街地】
- ・中標津らしい色
- ・空き家、空き地
- ・看板
- ・緑化 など
- 【農村部】
- ・沿道からの眺望景観
- ・防風林の造成
- ・道路工作物 など

※検討内容や優先順位については「なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング」で検討し進める。

検討



	日程	テーマ
第1回	平成29年 6月27日（火）	協働の景観まちづくりの目的の共有 <ul style="list-style-type: none">●中標津町の景観特性・課題等の共有●景観整備機構についての情報提供●景観まちづくりの方針(将来像・目指すべき姿)の共有●今年度のスケジュールの共有
第2回	平成29年 7月28日（金）	中標津型景観整備機構（仮称）の事業メニューの検討 <ul style="list-style-type: none">●景観整備機構の先行事例の紹介●中標津型景観整備機構の事業メニューの検討
第3回 (計根別)	平成29年 9月1日（金）	計根別の将来像の検討 <ul style="list-style-type: none">●計根別の資源・課題の振り返り●将来像の検討
第4回	平成29年 10月6日（金）	中標津型景観整備機構（仮称）の体制の検討 <ul style="list-style-type: none">●機構の組織体制の検討（代表・理事・事務局等）●関連する他団体との連携の体制の検討
第5回 (計根別)	平成29年 11月7日（火）	中標津型景観整備機構（仮称）との連携 <ul style="list-style-type: none">●中標津型景観整備機構が設立された際の連携の検討
第6回	平成30年 2月頃	平成29年度の振り返りと来年度の取組の検討 <ul style="list-style-type: none">●今年度の振り返り・反省●来年度の取組の検討（役割分担など）



中標津町景観計画（平成29年5月施行）

歴史、文化、産業との融和、自然との
共生による景観まちづくり

～中標津町の風土に調和した良好な景観を守り、つくり、育てる～





中標津町景観計画（平成29年5月施行）

「協働」による景観まちづくり

町民 活動団体 事業者 行政

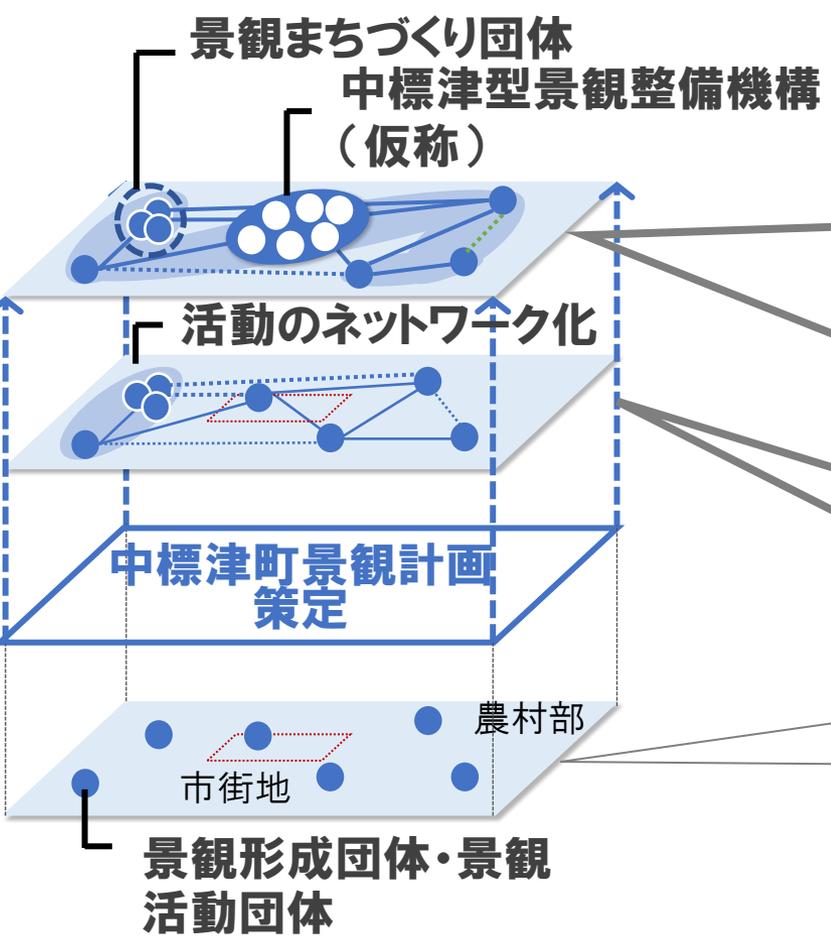
まちへの誇りや愛着を持てる“ふるさとなかしべつ”
町民がいきいきと住み続けられる持続可能なまち

を実現していきましょう！

「中標津型景観整備機構（仮称）」に向けた景観まちづくり活動のステップ

将来

現在



- ・団体相互の理解が進み、「**景観まちづくり団体**」へ
- ・協働の景観まちづくりを支える「**中標津型景観整備機構(仮称)**」創設
- ・まち全体の景観まちづくりへ

- ・団体相互が共感し、連携・協力することで**活動がネットワーク化**

- ・景観形成団体や景観活動団体が、個別で活動(または一部連携)

① 交流の機会、参加から団体のつながりへ



② 個人や団体をつなぐマネージャー（つなぎ役）

マネージャー（つなぎ役）



③ 連携した活動の実践をつうじて活動のネットワーク化

連携した活動を行う団体

景観まちづくり団体の形成



景観形成団体
景観活動団体
の交流

団体相互の
考えや想いの共有

マネージャー
（つなぎ役）による、
つながり

連携した活動の
実践と継続

活動の
ネットワーク化

景観まちづくり
団体の設立

『協働』の景観まちづくりを実践する「景観まちづくり団体」

互いに**手を組む**ことで、
「景観まちづくり団体」が形成



景観形成団体、 景観活動団体

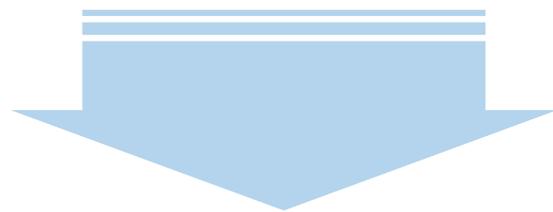
- ・ 既存活動の範囲拡大
- ・ 各種サポート活動
- ・ 地域との連携先導 など

各種産業従事者による団体 各種公益事業者による団体

- ・ 技術やノウハウの支援
- ・ 活動場所等の提供
- ・ 資金的支援 など

協働の景観まちづくりの**第一歩**を創出

いろいろな団体が**連携・協働**する
景観まちづくりを支える体制の一つ



景観整備機構



景観整備機構とは

- ・景観法により位置付けられた、**良好な景観の形成に関する事業を行う個人や団体への支援**を担うことを目的にした団体。
- ・**景観行政団体により指定**されるものです。平成25年時点で全国94法人が指定されています。
- ・**資金・ノウハウ等に乏しい地域住民に対応し、積極的に活動の支援や調整を行い、或いは自治体とともに良好な景観形成に取り組む主体**として活動することが望まれています。



地域で景観づくりに熱心に取り組み、さまざまな知見を有するNPO法人や公益法人が**景観形成の担い手として公的に位置付けられる**ことで、景観形成における行政と住民の役割分担が明確になり、**活発な景観まちづくりの促進**が期待されます。

景観整備機構の事例①

建築士会
主体

■北海道建築士会（北海道）

- 北海道建築士会内のまちづくり委員会が中心となり、景観整備機構の活動を行っている。
- 住民を対象としたまちあるきやバスツアー、講演会を開催したり、年に1度、道内各市町村で「まちづくりフォーラム」を実施するなど、住民に向けた景観啓発の取組を行っている。

業務区分						
1	2	3	4	5	6	7
●	-	-	-	-	●	●



事業メニュー（一部）

- 景観まちづくり塾（大通公園周辺をまちあるきするとともに、札幌南区をバス見学し、景観的に優れた「まちなみ」や「建築物」等の見学）

（平成28年度は景観整備機構としての活動はあまり行われていない。平成29年度は積極的に行政から業務を受託できるようアプローチしていく予定である。）

景観整備機構の事例②

NPO
主体

■ はこだて街なかプロジェクト（函館市）

- 歴史的なまちなみのある市内西部地区で人口減少、高齢化、空き地・空き家の問題が深刻化していることから、建築・不動産関係者などで発足した。
- 民間団体として街なかのフィールドワークや施策提案を行っている。

業務区分						
1	2	3	4	5	6	7
●	×	×	×	×	●	●



- 事業メニュー（一部）
- 空き地・空き家相談
 - 空き地への花植え活動
 - 全国のまちづくり活動の実践家を招いて、地元の方と共に実際の空き家・空き地の利活用を考える「ハコダテまちなかオープンスクール」の開催

なかしべつ協働の景観まちづくりミーティングin中標津地区

景観整備 機構

本ミーティングの検討を発展させ、景観整備機構を設立していく。

- ・ 今までの中標津町の景観の取組や景観計画を策定するまでの2年間で踏まえて、これからの取組を考えていきたい。
- ・ 次のステップとして景観整備機構を組織していくべきだと思う。

人材育成

子どもたちや子育て世代をはじめとする、今まで景観に対する関心の低かった人の意識を醸成し、活動に参加してもらう。

- ・ まちの魅力的な景観を子どもたちに受け継いでいきたいという思いがある。
- ・ 子どもや若い世代を対象にしたアンケートやイベントを企画して子どもたちの目線に立った活動をしていくと良いのではないか。

まち全体の 協働

関係団体と景観整備機構の組織や事業などを具体的に検討していく必要がある。

- ・ 景観まちづくりではいろんな人たちが協力しなければならないと思う。
- ・ まちづくりは自分たちで実践していくものであるという認識が必要であるので、町民自らが関われる場があった方が良い。

事業メニュー案

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ①景観フォトコンテスト | ⑤デザインの管理 |
| ②フォトツアー | ⑥空き家対策・空き店舗のリノベーション |
| ③花植え活動 | ⑦景観重要樹木、建造物指定検討のための調査 |
| ④丸山公園の場の活用 | |



平成28年度

7月28日

■第1回景観まちづくりワークショップin計根別地区

「中標津町景観計画」の策定にあたり、計根別地区との連携を図ることを目的とした情報交換を行いました。計根別地区の継続的な取組において必要な支援や、これからの景観まちづくりの取組イメージを共有しました。

会場：計根別交流センター

11月14日

■第2回景観まちづくりワークショップin計根別地区

第1回検討をふまえて、計根別地区のまちづくりで大切な4つの取組と、地域の抱える課題、検討していく取組を考えました。

会場：計根別交流センター



7月28日（木） 第1回 計根別地区ワークショップ

■主なご意見

・子ども達の“ふるさと意識”を育てていくため、身近な景観をよくしていくことは大事なことである。

→かっこいい大人の背中を見せたい！

・雑草やごみなど、身近な生活環境を“みんなの”協力で地道によくしていくことが、景観の良さにもつながる。

・なりわいで作られた計根別（中標津）の景観を活かして、“観光”につなげていくことも大事ではないか

→外国人観光客へのPR

→長い目で観光ルート、情報発信などに取り組む

11月14日（月） 第2回 計根別地区ワークショップ

■計根別地区のまちづくりで大切な4つの取組み

①自然災害に対する防災訓練・避難誘導等への取組み

【防災マップ】

- 防災マップは町内会によって作成・更新している。
- 河川が地区の低い所を流れているため、大水の時でも比較的安全な市街地であるが養老牛は、がけ崩れなどがある。

【防災訓練】

- 防災訓練は、4年に1度は開催する方針になっているが、アンケートでは1年に1回が最多となっている。

②防犯・交通安全対策に関する取組み

【夜道の明るさの確保】

- 道道など、歩道を照らすような防犯灯の設置について、考えていく必要がある。

11月14日（月） 第2回 計根別地区ワークショップ

■計根別地区のまちづくりで大切な4つの取組み

③高齢者、独居、障がい者等の“見守り”などの取組み

【人のつながりについて】

- 人のつながりを線で結ぶ「支え合いマップ」をつくる。
- 見守りの活動として、独居老人へ花を配っている（農高生徒）。
- 直接知らなくても、存在と、誰から情報を得られるか、をみんなで共有できる（個人情報ではないので、作りやすい）。

【地域活動について】

- 担い手や主体者が地域にいない。
- 老人クラブに入る人がいなくなったため、機能していない。
- 老人クラブ「あずま会」では、月に1回、そばを配っていて、それが見守り活動になっている。

【買い物・交通について】

- 買い物難民が増えていくため、支援サービスの検討や交通アクセスの見直しが必要である。
- トドックを利用している人は、たくさんいるのではないか？→コンビニ等のサービスをヒントに仕組みをつくれなにか？
- 交通問題については、有償で出来る範囲を検討していかないといけない。

11月14日（月） 第2回 計根別地区ワークショップ

■計根別地区のまちづくりで大切な4つの取組み

④景観も含めた自然環境整備に関する取組み

- 全ての項目に関わり合う取組みである。

【中標津農業高校の地域活動】

- 農高生徒が地区の遊び場や公共施設のゴミ拾いをしている。
→もっと地区に浸透させたい。
- 農高生徒数が減っている。活動の担い手として取り込んでいきたい。

【空き家・古い建物について】

- 空き家は、青少年育成協議会で、年に1回、地区内を点検している。
- 児童館の耐用年数が過ぎている。

【多世代交流・活動について】

- 多世代の交流を生むために、計根別の暮らしぶり(楽しい姿や一生懸命に取り組む様子など)を見せていきたいし、子ども達や高校生たちと触れ合う場面をつくっていきたい。
- 歩道の雑草除去等、できそうなことをやってみる。

■全体を通して大切な取組み

交流

楽しい交流によって明るい地域をつくる

- みんなで“食べる”などの楽しく集まることができるような交流があると、地域が明るくなり、見守りにつながる。
- みんなの笑顔をつくっていくことが、結果として計根別の景観を育てる。
- 取組みには、楽しめる魅力(食など)をつけたい。

協働

さまざまな団体が前向きに活動し、協働し合える環境をつくる

- 各主体(老人クラブなど)が地域や自分たちに貢献するような役割(ライフワーク)をつくることで、前向きに取組みをすすめられる。
- 地区内の色々な団体(農業高校も含む)と情報共有する場をつくる。見せる背中が明るく！

人材育成

次世代を担う子どもたちの“ふるさと意識”を育てる

- 子ども達の“ふるさと意識”を育てていくため、身近な景観を良くしていくことは大事なことである。
- 大人たちの前向きに取り組む姿を子ども(高校生)が見ることで、次世代につながるのではないか。

【これからの計根別地区のまちづくり】

⇒ **幅広い世代**が楽しくまちづくりに関わってもらうきっかけづくり

⇒ **子どもたち**の計根別(中標津)への**愛着の醸成**

事例 1 : 中標津町 景観学習

(中標津町 計根別学園・中標津東小学校(開催予定))

■ 模型を使って中標津町の格子状防風林の形成について学ぶ

- チームに分かれて格子状防風林・河畔林の模型を作り、それぞれの分布・生態系に合った生き物を配置するなど、視覚的に楽しく身近な自然について学ぶことができました。
- 町の航空写真の変遷を見ながら格子状防風林の形成の過程が分かりやすく説明されました。



航空写真の変遷を動画で見せることで子どもたちも分かりやすいものとなりました。



身近な自然の特徴や成り立ちについて実際に作業をしながら学びました。

事例 2 : 宮の沢中央クエスト (札幌市西区 宮の沢中央町内会)

■ 町内会区域を巡ってまちの魅力を発見！

- 町内会の区域内の公園や事業所にあるクイズを解きながら、4～5人のチームでまちあるきをすることで地域の魅力や課題の発見につなげます。
- まち歩きの中で、参加者には自分のお気に入りの景観の写真を撮影してもらったり、メモをとってもらい、まち歩き終了後にマップにまとめました。



子どもと高齢者が同じチームで謎解きをすることで多世代の交流が生まれます。



子どもたちが知らない地域の歴史を大人から教えてもらう機会にも…



付箋や写真を貼って、まち歩きをして気づいた魅力を大きなマップにまとめました。

全体でディスカッション！！

テーマ：計根別地区の将来イメージの検討と
“協働”を実現するための取組

1. 計根別地区の将来イメージの検討

2. 子どもたちの計根別（中標津）への愛着を育てる
取組の検討



お疲れさまでした

